

第3回 「新たな「京都市動物園構想」の策定」検討会議 議事摘録

日時：平成30年12月5日（水）午前9時半～正午

会場：京都市動物園 レクチャールーム

出席者：

【委員】

池田 泰子 市民公募委員
今村 礼子 市民公募委員
澤邊 吉信 岡崎自治連合会会長
中道 正之 大阪大学大学院人間科学研究科教授
福井 亘 京都府立大学大学院生命環境科学研究科准教授
藤井 容子 京都岡崎魅力づくり推進協議会 魅力情報発信担当マネージャー
本多 和夫 平安神宮 宮司
森村 成樹 京都大学野生動物研究センター特定准教授
湯本 貴和 京都大学霊長類研究所所長・教授

(欠席)

松本 朱実 動物教材研究所 pocket 主宰 甲南大学非常勤講師

【事務局】

(文化市民局)

文化担当局長	北村 信幸
文化芸術都市推進室長	尾崎 学
文化芸術企画課長	藤田 智洋

(動物園)

園長	片山 博昭
副園長	坂本 英房
総務課長	山本 孝
種の保存展示課長	和田 晴太郎
生き物・学び・研究センター長	田中 正之
総務課庶務係長	牛丸 昭
総務課	岩浅 拓也

(コンサルタント)

株式会社地域計画建築研究所	三木 健治, 嶋崎 雅嘉, 原田 稔, 三浦 健史, 塗師木 伸介
---------------	--------------------------------------

【オブザーバー】

地球温暖化対策課長	安田 真也
環境管理課長	濱口 弘行
設備企画担当課長	田中 良幸
公共建築企画課課長補佐	樋口 博紀
建築企画第一係長	堀村 清一郎
公共建築企画課	大野 達三
教育委員会学校指導課長	諏佐 準一

進行役あいさつ（動物園総務課長 山本 孝）

- ・藤井委員におかれては遅れて参加となる。
- ・松本委員は欠席である。
- ・本委員会は公開となっているので、一般市民による傍聴と写真撮影についてご了解頂きたい。

1 開会

湯本座長

- ・本多委員が初めての出席ということで挨拶をお願いしたい。

本多委員

- ・動物園に詳しくはないが微力ながら協力させていただけたらと思う。

2 議題

(1) 新たな「京都市動物園構想」全体構成の考え方イメージについて

(2) 京都市動物園理念(案)等について

坂本副園長

- ・(資料1・表面 新たな「京都市動物園構想」全体構成の考え方イメージ 説明)

三木(地域計画建築研究所)

- ・昨今は公共施設がこれから具体的にどのようなことをやっていくのか、その役割を市民にわかりやすく説明することが求められている。具体的な計画を今後示して行く前に、今説明のあった理念を噛み砕いて、どのように今後進めて行くかということを戦略として示している。

嶋崎(地域計画建築研究所)

- ・(資料1・表面(推進戦略以降) および裏面を説明)

湯本座長

- ・この会議も3回目となるが、初回は課題と動物園に対する思いを話した。
- ・A3の資料を中心に議論をしたいと思う。
- ・資料内の課題⑤については課題①～④を実現するためのインフラ整備ということかと思う。
- ・理念について、これまでの議論では共汗や共に汗をかくというものだったと思うが、この理念は動物園だけの話となっている。ネットワークや協働すること等が入っていない。市民、企業、大学等をネットワークする核となっていくというようなことが議論されてきたかと思うので協働といった理念もあってよいように思う。市民に協力を呼びかけるようなものになると良い。

森村委員

- ・資料1表面の推進戦略の「教育・環境教育の取組み戦略」について、私は動物園が人に対して投資していくということと理解している。これは新しい考え方であると思った。今まではインフラの投資が主だった。それが座長の言うネットワークと言っていることに繋がっていくと思う。
- ・この中で娯楽の位置付けが難しいというのはみなさんも共感してもらえるかと思うが、この4つの課

題を均等にやっていって、すべて均等に達成できるのかが疑問である。

- ・この動物園という組織をもっていることによって京都の人々がどんな利益があるのかというところが明確になっていない。
- ・そんな中、理念はとても新しいものとなっているが、従来型の集客目標を設定しているというところにギャップを感じる。

湯本座長

- ・生き物・学び・研究センターをつくったことにより、人への投資が可能になり、それが教育へつながっていくというのはとてもつながり易いが、それを娯楽観光につなげていけるのかというご質問かと思う。

坂本副園長

- ・理念の主語が動物園となってしまうので協働や多くの人を巻き込んで進めていくというメッセージを盛り込んで行きたい。
- ・生き物・学び・研究センターは全国唯一の場所だと思う。この成果と魅力をしっかり発信して集客につなげていくために、内部で議論していけたらと思う。

今村委員

- ・私は福岡出身で大牟田市動物園が今注目されている。なにも施設整備もしていないが、動物福祉の視点で行われる飼育員の行動も含めての展示としている。それに観客が興味を持って来場している。設備更新のビフォーアフターも見せたりしており、そういったことには特に大人が興味を持っている。
- ・大牟田市動物園の手法と研究機関をもつ京都市動物園の特徴を生かしていければとても大きな魅力になると思う。

湯本座長

- ・エンリッチメントという言葉自体が一般の方の認識もまだ低いと思われるので、それ自体が新たな展示となるといえる。
- ・田中先生の認知学的な取り組みはどれくらい公開しているのか。

田中センター長

- ・チンパンジーの勉強(知性の展示)の様子は当初より公開している。毎月一回来訪者へのガイドも行なっている。しかし、毎日やり続けるというのは難しいので、私がいなくてもどうやって伝えるのか、伝えるためのマネジメント戦略を考えていかないといけない。
- ・とはいっても、私は学者なのでどうやって市民にわかりやすく売り込むか等を組織的に取り組んでいかないといけないと思っている。

湯本座長

- ・チンパンジーがタッチパネルにさわれないところから、ビデオによって展示するというのは方法としてあるかと思う。

片山園長

- ・現在、獣医や救護センターの職員がガイドをおこなったりしているが、それは京都市動物園の魅力的な資源だと思っている。これは構想の中でも位置付けて打ち出していくべきかと思う。
- ・観光振興の言葉でテクニカルビジットという言葉があるが、研究者の技術等を展示するという考え方もあってよいように思った。

中道委員

- ・この理念はだれに向けた理念なのかということを知りて思った。内部に向けての理念のようにも聞こえた。これが市民に向けてのものであるのならもっと書きぶりが変わると思う。
- ・動物園というのは、動物と人との関わりを展示しているという面があるので、その考え方を抜くことは考えにくい。
- ・食事や掃除の場面も展示になるかと思う。
- ・飼育員が動物についてよく知っているということも来園者にとって楽しみとなる。

湯本座長

- ・人の資源を生かした取り組みを今もおこなっているということで、その人たちがいない時にどうするかというのが課題ではあるが、人と動物の関わり方を展示するのが新しい動物園のあり方なのかと思う。それに研究というものを活かさないというのはもったいない。

池田委員

- ・私は娯楽と観光は別物だと考えていて、学ぶ以上の娯楽はないと思う。京都市動物園の役割1～3を体験することが娯楽に繋がると思う。観光についてはマーケティング、ディレクションといったものに分類されるものかと思う。
- ・理念については聞いていて違和感はなかったが、一般の人に難しい言葉（希少種等）をわかりやすく伝えていく必要があるかと思う。そして、地域の「拠点となる」といった内容も入ると良いと思う。
- ・飼育員の話等を発信していくというのは本でいうとコラムに当たるものだと思う。私は仕事をしていて思うが、日本人はコラムが好きというのを感じている。しかしコラムばかりだと本筋が見えなくなっていくので気をつけないといけない。コラムをいかに効果的に配置するかが大事である。
- ・シニアボランティアを活用し、子供に分かりやすい言葉で伝えていくという取り組みもしていくとよい。

湯本座長

- ・動物園の本筋というのは生きた動物を飼育していることで、その飼育動物を絶滅の危機から守るために種の保存に取り組むという話について回る話である。
- ・その中、京都市動物園がライオンをやめるというのもメッセージになると思う。
- ・伝えるというのは技術があるので片手間でできない。この場にいる人は動物園のプロに近い人なので、素人の目線を考えながら進めていってもらえればと思う。

本多委員

- ・平安神宮の生き物を説明することを知りているが、素人は思いがけないところに食いついたりする。専

門家の方にとっては基本的なことなので、見逃してしまっている。そういったことも再度見直してみたい。

福井委員

- ・理念は動物園のみなさんの決意表明のように感じている。市民に伝える場合はもう少し噛み砕いた表現とした方がよい。
- ・推進戦略について「4. 娯楽・観光の取組み戦略」が「1. 種の保存・環境保全の取組み戦略」、「2. 研究の取組み戦略」と並列で並んでいることに違和感がある。娯楽観光は大切であるが、1～3 が本質なのでその外側に「4. 娯楽・観光～」があるかと思う。「5. 動物園の4つの役割を果たす取組み戦略」についても4つの役割ではなく3つの役割+1ではないか。
- ・目標の集客100万人については妥当な数字なのか精査が必要かと思う。
- ・周辺との取り組みの話が少ないように感じた。
- ・生き物学び研究センターについては日本で初のことだと思うのでぜひ活かして欲しい。
- ・紀要研究の発表はしているか？
- ・コラム的なものについてももっとわかりやすく市民が見られるようにしていくと良いと思う。

田中センター長

- ・動物園全体の活動として冊子を出しているところはある。
- ・研究紀要は水族館でつくっているところはあるように思う。本園でも今後まとめていきたいと考えている。

片山園長

- ・平成27年度（リニューアル時）：120万人、28年度：96万人、29年度：91万人とリニューアル効果で来訪者が増えた。
- ・リニューアル前の基礎的な集客数は70万人程度である。その後、施設のリニューアルが行われ、魅力も一定アップしたと考え、100万人という目標を掲げ、年齢層別の増加は棒グラフのような推移をシミュレーションしている。

中道委員

- ・動物園の研究紀要の話があったが、研究者の思っている研究紀要というのは来場者にとって難しい内容だと思う。
- ・他の動物園で報告集を出しているのを見たことがある。そこには動物の生き様を書いてある。京都市動物園の一年の暮らしの記録を発信していくのはどうか。それがゆくゆくは個体史のようになっていく。動物行動の研究の中でも個性というのは大切になってきている。それを積み重ねていくことでもっとメッセージを発信していくことが出来るかと思う。

澤邊委員

- ・商売をする上で社是や行動理念というものがある。理念については行動・経営理念にあたるものと理解している。
- ・集客目標も現状に対して更に上を目指していくということは当たり前かと思う。

- ・私は薬科大の出身だが、薬は何を飲むのかと疑問に思った。そういったことも発信するとよいように思う。
- ・中学生等の職場体験を行えるとそれは子供達にとってとても印象深い体験となる。
- ・職員にも親近感を持てる取り組みも進めていくとよいと思う。
- ・エンリッチメント等の言葉は素人なのでよくわからない。難しい言葉を使わずに説明していただければと思う。

藤井委員

- ・理念については、湯本座長、池田委員、澤邊委員と同じ意見である。
- ・資料2 京都市動物園理念に世界文化自由都市宣言のことが記載されている。とても素晴らしいと思う。同時に、せっかくこれを受けるのであれば都市にある動物園というものの存在意義がなになのかを考える必要がある。
- ・動物園は歴史から見て、時代の価値観の変化を受けるものだと思う。これからの時代の価値観は何なのかを見つめ、それを先取りするような理念にしていければと思う。
- ・資料3 の目次について、地域への貢献や市民協働について記載される場所がない。これまでの実績（夜間開園等）もあると思うので記載できるようにしてほしい。
- ・娯楽・観光という言葉について違和感をもたれている委員の方が多くのことだが、私も同意見である。教育についても違和感があり、教育と娯楽が合わさった知的好奇心という内容が入るとまとまるように思う。
- ・観光を進めたいということがなぜなのかということ整理、共有した方がよいと思う。京都の一員として観光を進めたいのか、経営基盤の確立のため観光を進めたいのか等があるかと思う。

湯本座長

- ・世界や日本の動物園の中での京都市動物園の立ち位置も重要である。最近、国が貴重な種の保存の役割を担う認定動物園という制度が出来た。京都市動物園も認定を目指すのか？

坂本副園長

- ・現在、手続きを進めており、認定される見通しである。

湯本座長

- ・Species360 に参加することも国際的なネットワーク形成と役割を果たすために大切なことである。
- ・前回コレクションプランの説明があったが、本日はそこまで議論出来ていない。動物園の役割「1. 種の保存・環境保全」について動物園より取り組みや考え方を説明してほしい。

坂本副園長

- ・場所も限られているので優先種を決め繁殖を進めてこうと考えている。
- ・Species360 に加盟しているかどうかについては海外の動物園と動物のやりとりを行う中で大切なポイントとなっているので加入を進めていきたいと思う。
- ・認定動物園についてももうまもなく手続きが完了する予定である。

中道委員

- ・国際的に見てゴリラやイチモンジタナゴ等の繁殖をなぜ京都市動物園でやるのかということを整理すべきかと思う。

副園長

- ・例えばゴリラの展示については種の保全に直結するわけではないが、日本の子供たちにゴリラを見せたいというのがまずある。飼育展示種の維持という側面が大きい。しかし、飼育されているゴリラを見てもらい、現状をつたえることで来場者に自分たちに何が出来るだろうと考えてもらうきっかけをつくるということも動物園の大切な役割だと考えている。

湯本座長

- ・ゴリラをみてもらうことでゴリラの生息地に思いを馳せるというのは大切な役割だと思う。

—休憩—

北村局長

- ・みなさまのもたれている娯楽観光の違和感については藤井委員のコメントで納得するところがあった。例えば観光客の多い二条城などで観光ということを謳っているわけではないのであえて観光という言葉を入れることは不要と思う。
- ・学び若しくは娯楽のどちらに該当するか分らないが家族で動物園に来て動物を見て、お弁当を食べて帰るということは市民との関係の上で大事なことだと思うのでそういった内容をどこかに入れられればと思う。

片山園長

- ・当初の5つの柱と24の施策をつくった際に「多くの人が集い、多くの学びを広げる動物園」という意識があった。このときも娯楽や観光という言葉を使いたくないという意識があった。なので、戦略の中の娯楽という言葉を少し変えていければと思う。

湯本座長

- ・資料1の表面の動物園の役割についてはあえて図示する必要もないように思う。

森村委員

- ・「4. 娯楽・観光～」についてはマーケティングという視点が強いと思う。研究という形で人を育て、保全という形でハードを整備し、教育という形でソフトを充実させる、それをどうやって集客に結びつけるかということなので、ここで必ずしも娯楽を専門的に扱う必要はないように思う。
- ・マーケティングに本気で取り組んでいる動物園というのは全国にないと思うのでそこに人的投資を行うことを進めるとよいように思う。
- ・10年スパンで数値目標を設定した方が良くと思うが、その中で教育効果を数値でどうやって評価するかということを実際に検討した方が良く。
- ・来場者の70万人のどれだけの割合が教育に参加できるかというのが大切で、ほぼ全員が教育に参加で

きるというのが目標であるように思う。

池田委員

- ・マーケティングやディレクションについては 30 年前から問題になっていて、海外では広報と園長(ディレクター)が独立して存在している。なぜ日本で取り組めないのかと考えると、財源が税金を元にしてることが問題になっているように私は感じている。それはそれでよい面もあって、子供たちが貧富の差がなく来ることができるというところもある。日本はそういった面を伸ばしていけば良いと思う。

湯本座長

- ・宮崎県で博物館を全て無料にするということもあった。博物館はすべて教育施設という考え方である。教育施設であることに府民が納得してもらえらるようなことがあればそれでよいと思う。そのためには説明責任を果たさないといけない。

中道委員

- ・資料 1 表面右側の図にボランティアという言葉が資料にない。ボランティアとは来てもらって説明してもらっただけでは良くなく、責任感が生まれるような教育が大切である。そういった取り組みを進めていく必要がある。その中で研究的な内容も入れられるとよい。
- ・楽しい学びの場という言葉はよいのでその部分にスポットがもっと当たると良い。
- ・飼育員が論文を書くというのは、他の仕事がある中とても大変なことなので、生き物・学び・研究センターがそれを支援してモチベーションをあげてあげることが大切である。

湯本座長

- ・ボランティアについては認定していくシステムが大切だと思う。そういった称号があることでモチベーションの維持に繋がると思う。

藤井委員

- ・座長の意見に同感である。ボランティアという名前を変えた方がよいと思う。安価あるいは無料の労働力と捉えているのではない意志を表明するためにも、例えばサポーターといった呼び方とし、参加者がその体験をすることで何かを得られるようにすると良い。
- ・有料のサポーター会員制度との組み合わせも考えていったらよいと思う。そういった人たちに動物園が直接発信(メール等)していくことが必要である。
- ・認定制度で認定されたファンが他の人に伝えていくというネットワークが出来ると良い。

福井委員

- ・私は学生時代に美術館のボランティアに参加したことがあるが、半年間研修があった。その研修が終わってからボランティアに参加できるようになる。そういった研修によって知識を得られるというのも参加者にとってメリットとなる。また、ボランティアは無料で美術館に入館できた。何かボランティア側にメリットがないと続かない。
- ・京都には里地里山に色々な野生動物がおり、絶滅の危機に瀕しているものもある。そういった地域の

個性や状況をもっと発信していくとよいと思う。それが他園との差別化につながる。

本多委員

- ・平安神宮の池の水も琵琶湖から動物園を経由して入ってきているので動物園ともしっかり連携をさせて頂きたい。
- ・平安神宮の庭の生物多様性を子供達につたえるために撮りためた写真を使って紹介している。
- ・現在、ヘドロによりイチモンジタナゴが減っている。

澤邊委員

- ・これからは優良ボランティアを大切に育てていかないと成り立っていかないとと思うので制度を整備して行ってほしい。

今村委員

- ・今回、市民委員をさせて頂いているが、それだけで動物園のことを調べたり、勉強したりしないといけないと感じているので認定制度は良いと思う。

湯本座長

- ・以上で本日の討議は終了したい。

3 閉会

山本課長

- ・次回の開催日については2月ごろを予定している。改めて調整を行わせていただきたいと思います。
- ・これにて第三回の検討委員会を終了する。